

== 直 播 情 報 (第 1 号) ==

令和元年 5 月 28 日
農業技術課 広域普及指導センター

1 湛水土中直播栽培（カルパー）

(1) 播種時期

調査ほ場（8ほ場）の播種は、4月28日～5月10日にかけて行われ、全体の平均は5月2日であった。

(2) 播種後の気象条件

4月6半旬は、低温・寡照・多雨で経過したが、5月前半の平均気温は、16.3℃（平年差：+0.2℃）と平年並となり、全天日射量は23.2MJ/m²/day（平年比：135%）と多照で経過した。

また、5月上旬の降水量は52.0mm（対平年比72%）と平年より少なかった。

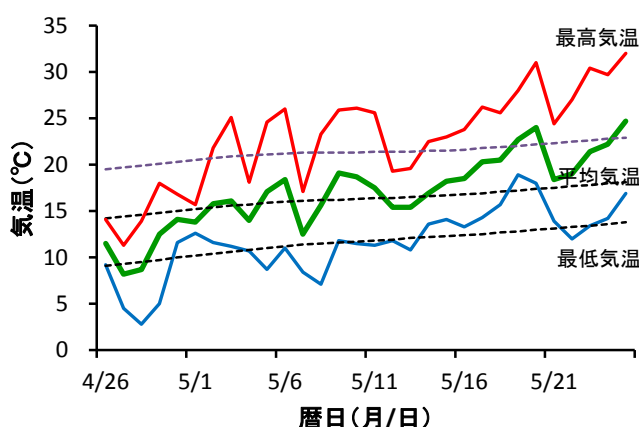


図1 気温の推移（富山地方気象台）

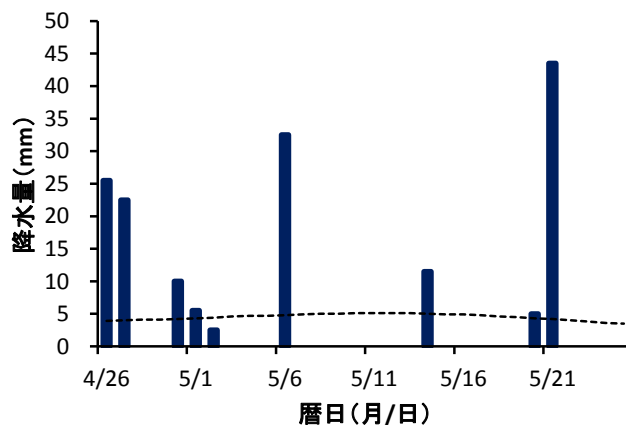


図2 降水量の推移（富山地方気象台）

(3) 苗立ち・生育状況

播種量は2.9kg/10a、苗立本数、苗立率は71.4本/m²、67.8%と平年並み、出芽深度は7.5mmであった。

また、草丈は17.9cmと平年並みであるが、茎数は125本/m²（平年比142%）とかなり多く、葉齢は3.7葉とやや進んでいる。

表1 苗立ちおよび生育状況（湛水土中直播栽培コシヒカリ）

年次	苗立調査					生育調査(5月28日)		
	播種日 (月/日)	播種量 (kg/10a)	苗立本数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出芽深度 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)
R元	5/2	2.9	71.4	67.8	7.5	17.9	125	3.7
H30	5/1	2.9	64.1	62.4	5.5	18.4	81	3.6
平年	5/2	3.0	69.0	66.0	8.0	17.6	88	3.3
前年比・差	1	0.0	111	109	2.0	97	154	0.1
平年比・差	0	-0.1	103	103	-0.5	102	142	0.4

注) 平年はH21～30年の平均値

(4) 当面の技術対策

- ・ 軟弱徒長を防ぎ、有効茎を早期に確保するため、浅水管理を徹底する。
- ・ 茎数がかかなり多くなっており、今後も急速に増加することが予想されるので、溝掘りと中干しは遅れずに実施する。
- ・ 残草が見られる場合は、草種に応じた除草剤を的確に散布する。

① 浅水管理を徹底

浅水管理により、軟弱徒長を防ぎ、分けつの発生を促す。

② 溝掘りを徹底して、中干しを遅れずに実施

ほ場への入排水の効率を高めるため、中干しに入る前に5m（15～17条）に1本を目安に溝掘りを必ず実施する。

本年は、初期生育が良好で、今後も高温で推移することが予測される。さらに、直播は移植に比べ分けつが発生しやすいので、中干しは、有効茎の約80%（6.5葉期頃；茎数320本/m²、1m当たり100本程度）から遅れずに開始し、稲体及び根の健全化を図る。

③ 的確な雑草防除

残草が見られる場合は、草種に応じた除草剤を散布する。ヒエのみが残っている場合は、クリンチャー1キロ粒剤を1.5kg/10a散布する。あわせて、広葉雑草が残っている場合は、クリンチャーバスME液剤等を散布する。

藻類や表層はく離の著しい圃場では、水の入換えを行うか、イネが3葉期以降であることを確認して、モゲトン粒剤等を散布する。

④ 病虫害防除を徹底

イネミズゾウムシ、イネドロオイムシは下表の目安をもとに防除を行う。また、葉いもちの予防粒剤を中干し後、6月中旬頃までに散布する。

表2 防除の目安（5月下旬～6月上旬）

対象害虫	成虫数
イネミズゾウムシ	3頭以上/10株
イネドロオイムシ	0.5頭以上/10株

2 湛水表面直播栽培（鉄）

(1) 播種時期

調査ほ場（6ほ場）の播種は、4月27日～5月6日にかけて行われ、全体の平均では4月30日であった。

(2) 苗立ち・生育状況

播種量は3.5kg/10a、苗立本数は74.1本/m²、苗立率は58.8%、出芽深度は0.7mmであった。播種量が多かったが、苗立率が近年よりやや低かったため、苗立本数は近年並みとなった。

また、草丈は17.0cmと長く、茎数は122本/m²とかなり多く、葉齢は4.1葉とかなり進んでいる。

表3 苗立ちおよび生育状況(湛水表面直播栽培コシヒカリ)

年次	苗立調査					生育調査(5月28日)		
	播種日 (月/日)	播種量 (kg/10a)	苗立本数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出芽深度 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)
R元	4/30	3.5	74.1	58.8	0.7	17.0	122	4.1
H30	4/30	3.1	74.8	64.2	1.2	16.1	77	3.3
近年	5/1	3.0	73.0	62.0	1.0	14.3	82	3.3
前年比・差	0	0.4	99	92	-0.5	106	159	0.8
近年比・差	-1	0.5	102	95	-0.3	119	149	0.8

注) 近年はH26～30年の平均値

(3) 当面の技術対策

水管理や病害虫防除は、湛水土中直播栽培に準ずる。

特に、苗立ちが多いなど過剰茎数が懸念されるほ場等では、中干しは遅れないようにする。

3 乾田V溝直播栽培

(1) 播種時期

調査ほ場(6ほ場)の播種は、4月8日～28日にかけて行われ、全体の平均では4月19日であった。

(2) 苗立ち・生育状況

播種量は7.2kg/10a、苗立本数は188.7本/m²、苗立率は70.8%、出芽深度は38.9mmであった。

また、草丈は11.8cmと長く、茎数は198本/m²と多く、葉齢は3.1葉と進んでいる。

表4 苗立ちおよび生育状況(乾田V溝直播栽培コシヒカリ)

年次	苗立調査					生育調査(5月28日)		
	播種日 (月/日)	播種量 (kg/10a)	苗立本数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出芽深度 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)
R元	4/19	7.2	188.7	70.8	38.9	11.8	198	3.1
H30	4/19	7.3	180.0	68.2	35.6	11.5	186	2.9
平年	4/22	7.0	168.0	64.0	37.0	10.0	173	2.6
前年比・差	0	-0.1	105	104	3.3	102	107	0.2
平年比・差	-3	0.2	112	111	1.9	118	114	0.5

注) 平年はH21～30年の平均値

(3) 当面の技術対策

イネの葉齢の進みが早いので、まだ入水していないほ場では、葉齢を確認して直ちに入水・湛水し、遅れずに体系是正剤を散布する。なお、クリンチャーバスME液剤を散布したほ場では、散布後3日以上経過してから入水する。

一旦湛水したら成熟期の1週間程度前まで、深水管理(水深10cm程度)を行う。

病害虫防除は、湛水土中直播栽培に準ずる。